

令和3年第2回定例会（12月議会）

農林水産委員会提出資料

（所管事項関係）

令和3年12月1日

農 林 水 産 部

目 次

1	新ふるさと秋田農林水産ビジョン（素案）について〔農林政策課〕 -----	1
	〔別冊資料〕新ふるさと秋田農林水産ビジョン（素案）	
2	サキホコレのブランド化戦略の進捗状況について 〔水田総合利用課秋田米ブランド推進室〕 ----	4
3	ナラ枯れ被害の発生状況について〔森林整備課〕 -----	6
4	令和2年度新規林業就業者の確保状況について〔森林整備課〕 -----	8

1 新ふるさと秋田農林水産ビジョン（素案）について

農林政策課

農林水産施策の基本計画となる「ふるさと秋田農林水産ビジョン」について、「新秋田元気創造プラン」の策定と合わせて見直しを行い、素案を取りまとめた。

1 新ビジョンの構成

第1編 ビジョンの策定にあたって

■計画の位置付け

- ・「秋田の農林水産業と農山漁村を元気づける条例」に基づく基本計画
- ・「新秋田元気創造プラン」を補完し、農林水産業全体を網羅する基本計画

■実施期間：令和4～7年度（4年間）

■農林水産業を取り巻く情勢

■第3期ビジョンの成果と課題、今後の推進方針

第2編 ビジョンの目指す姿

第3編 施策展開

「農業」「林業」「水産業」「農山漁村」の4つの目指す姿を実現するための施策展開

※新元気プランと同じ施策体系とし、観光文化スポーツ部・生活環境部・建設部の施策の一部を取り込み構成

第4編 農林水産業の展望

基本フレームとなる「産出額（農業、林業、漁業）」、「農家戸数」、「労働力（農業就業者数、林業従事者数、漁業就業人口）」、「生産基盤（耕地面積等）」

第5編 経営モデル

営農類型・経営指標

第6編 参考資料

用語解説、目指す成果目標一覧 など

2月議会で提示

2 新ふるさと秋田農林水産ビジョン（素案）の概要

【現状と課題】

- ◆ **労働力不足の深刻化と世界的な食料不安の顕在化**
 - ・農業の担い手や労働力不足が深刻化する中、世界的な人口増加や地球温暖化を背景に食料不安が顕在化
 - ・広大な農地を有する農業県として、食料供給力の強化に向け、更なる生産性向上や複合化の推進が必要
- ◆ **環境負荷軽減への対応**
 - ・SDGsや環境に対する関心が高まる中、持続可能性が高い環境保全型農業の取組の拡大など、環境負荷軽減に向けた対応が必要
- ◆ **カーボンニュートラルの実現に向けた森林の役割の増大**
 - ・カーボンニュートラルの実現に向け、「伐って・使って・植える」という森林資源の循環利用により、林業・木材産業の成長産業化と森林の多面的機能の持続的な発揮の両立が必要
- ◆ **海洋環境の変化に伴う魚種・漁獲量の変動**
 - ・水揚げされる魚種や漁獲量が毎年変動する中、漁業所得の安定確保に向け、漁業生産の安定化や効率化が必要
- ◆ **農山漁村の活力低下**
 - ・中山間地域では、担い手不足等を背景に活力低下が懸念されており、特色ある農業の振興などによる農山漁村の活性化が必要

【戦略の目標】（目指す姿）

- （目指す姿1） **農業の食料供給力の強化**
 - ・経営力の高い担い手が持続的・効率的な生産体制により、本県の広大な農地をフルに活用して、食料供給を担っていく農業の実現を目指します。
- （目指す姿2） **林業・木材産業の成長産業化**
 - ・「伐って・使って・植える」という森林資源の循環利用により、林業・木材産業の成長産業化と森林の多面的機能の持続的な発揮の両立を目指します。
- （目指す姿3） **水産業の持続的な発展**
 - ・新規就業者が安定的に確保されるとともに、海洋環境変化が著しい中で収益性の高い魚種の資源量を維持し、効率的・安定的な操業と販売力の強化に加え、蓄養殖技術の確立を目指します。
- （目指す姿4） **農山漁村の活性化**
 - ・中山間地域ならではの農業・農村ビジネスの振興や、半農半Xなど新たな兼業スタイルの普及により、関係人口や定住人口の拡大が進むなど、多様な人材が活躍する農山漁村の実現を目指します。

目指す姿1 農業の食料供給力の強化

<主な数値目標>

- **農業産出額**
現状(R1) 1,931億円 → 目標(R7) 2,000億円
- **新規就農者数**
現状(R2) 252人 → 目標(R7) 310人
- **農業法人数(認定農業者) ※年度末実績**
現状(R2) 788法人 → 目標(R7) 957法人
- **実用化できる試験研究成果【累計】**
現状(R2) 377件 → 目標(R7) 480件
- **ほ場整備面積【累計】**
現状(R2) 90,981ha → 目標(R7) 94,540ha
- **主要園芸品目の系統販売額**
現状(R2) 167億円 → 目標(R7) 200億円
- **秋田牛出荷頭数**
現状(R2) 2,844頭 → 目標(R7) 3,683頭
- **サキホコレの作付面積**
現状(R2) 0ha → 目標(R7) 3,200ha
- **農産物の輸出額**
現状(R2) 2.9億円 → 目標(R7) 6.0億円

【施策の方向性】

- ① 経営力の高い担い手と新規就農者の確保・育成
- ② 持続可能で効率的な生産体制づくり
- ③ マーケットに対応した複合型生産構造への転換
- ④ 水田のフル活用と需要に応じた米生産の促進
- ⑤ 農産物のブランド化と流通・販売体制の整備
- ⑥ 秋田の「食」のブランド化と県産食品の販売促進

【主な取組】

- | | |
|----------|--|
| 方向性
① | <ul style="list-style-type: none"> ・農業経営の法人化・継承や集落営農の統合・連携の促進 ・外部人材を活用した実践的な研修などによる企業的経営体の育成 ・地域をリードする女性農業者の育成と活躍できる環境づくり ・研修制度の充実や農地確保へのサポートなど新規就農者の受入体制の強化 |
| ② | <ul style="list-style-type: none"> ・リモートセンシング等を活用した生産性向上技術の開発 ・栽培管理データのデジタル化やスマート農機導入の促進 ・水田の大区画化やスマート農業に対応した基盤整備の推進 |
| ③ | <ul style="list-style-type: none"> ・所得の増加に向けた主要園芸品目の単収・品質向上の促進 ・全国トップクラスの園芸品目の拡大とブランド力の強化 ・畜産経営のステップアップに向けた生産性向上や効率化の促進 ・生産者等が主体となった秋田牛・比内地鶏のブランド力の強化 |
| ④ | <ul style="list-style-type: none"> ・高品質なサキホコレの安定供給に向けた生産体制の確立 ・サキホコレのブランド力を高める流通・販売対策と戦略的な情報発信 ・秋田米の低コストな生産・流通体制の確立 ・多様なニーズに対応した戦略的な秋田米の販売対策 |
| ⑤ | <ul style="list-style-type: none"> ・異業種間連携による6次化商品の開発・販売の促進 ・国内外へ通じるトップブランド農産物の創出 ・輸出に取り組む農業者への支援と産地づくりの促進 |
| ⑥ | <ul style="list-style-type: none"> ・酒米新品種を活用した高品質な県産清酒や米加工品などの商品開発の促進 ・ネット販売等の強化に向けた事業者の取組の促進 |

目指す姿2 林業・木材産業の成長産業

<主な数値目標>

■林業産出額

現状(R1) 162億円 → 目標(R7) 219億円

■新規林業就業者数

現状(R2) 122人 → 目標(R7) 134人

■再造林面積

現状(R2) 332ha → 目標(R7) 750ha

■素材生産量

現状(R2) 1,425千m³ → 目標(R7) 1,900千m³

■スギ製品出荷量

現状(R2) 530千m³ → 目標(R7) 752千m³

【施策の方向性】

- ①次代を担う人材の確保・育成
- ②再造林の促進
- ③木材の利用促進と生産・流通体制の整備
- ④森林の有する多面的機能の発揮の促進

【主な取組】

- | | |
|----------|--|
| 方向性
① | <ul style="list-style-type: none"> 高性能林業機械やICT等を活用した新しい林業に対応できる人材の育成 無料職業紹介所等を通じた林業従事者の確保 |
| ② | <ul style="list-style-type: none"> 林業経営体が伐採から再造林・保育までを継続して管理する仕組みの構築 実践フィールドの活用などによる低コスト・省力造林技術の普及 造林・保育分野へのスマート技術の導入促進 |
| ③ | <ul style="list-style-type: none"> 路網整備と高性能林業機械を組み合わせた効率的な生産体制の構築 原木需要の拡大に対応できる生産・流通システムの構築 多様なニーズに対応した高品質な木材製品の生産・供給体制の構築 住宅分野での外材や他県産材から県産材への転換の促進 非住宅分野での一般流通材の活用の促進 県内企業による製材品の輸出の促進 |
| ④ | <ul style="list-style-type: none"> 森林経営管理制度に基づく市町村が主体となる森林整備の促進 市町村や森林組合等が行う森林病虫害防除対策の促進 |

目指す姿3 水産業の持続的な発展

<主な数値目標>

■漁業産出額

現状(R1) 26億円 → 目標(R7) 27億円

■新規漁業就業者数(60歳未満)

現状(R2) 10人 → 目標(R7) 10人

■蓄養殖等に取り組む漁業経営体数【累計】

現状(R2) 17経営体 → 目標(R7) 90経営体

【施策の方向性】

- ①次代を担う人材の確保・育成
- ②つくり育てる漁業の推進
- ③漁業生産の安定化と水産物のブランド化
- ④漁港・漁場の整備

- | | |
|----------|---|
| 方向性
① | <ul style="list-style-type: none"> 就業希望者を対象とした漁業体験や技術習得研修の実施 漁業者の経営管理能力の向上に向けた研修の実施 |
| ② | <ul style="list-style-type: none"> アワビ種苗の大型化やキジハタなど収益性の高い魚種の種苗生産技術の開発 トラフグの種苗生産・放流と育成技術の開発 漁業者が行うハタハタの自主的な資源管理の促進 |
| ③ | <ul style="list-style-type: none"> 海況データ等に基づく漁場予測システムの展開 漁獲情報のデジタル化に向けた機器導入の促進などの環境整備 ブリ・サクラマスなどの蓄養殖技術の開発 サーモン・クルマエビ・ギバサなどの蓄養殖の現地実証 漁師直売の仕組みづくりとオンライン販売の環境整備 |
| ④ | <ul style="list-style-type: none"> 海域の生産力を高める魚礁・増殖場の計画的な整備 底質改善に向けた海底耕耘の実施 |

目指す姿4 農山漁村の活性化

<主な数値目標>

■中山間地域ブランド特産物数【累計】

現状(R2) 0件 → 目標(R7) 12件

■農村関係人口数

現状(R2) 5,555人 → 目標(R7) 9,800人

【施策の方向性】

- ①中山間地域における特色ある農業の振興
- ②地域資源を生かした多様な農村ビジネスの促進
- ③新たな兼業スタイルによる定住の促進
- ④里地里山の保全管理と鳥獣被害対策の推進
- ⑤安全・安心な地域づくりと施設の長寿命化の推進

- | | |
|----------|---|
| 方向性
① | <ul style="list-style-type: none"> 中山間地域ならではのキラリと光る地域特産物のブランド化 中山間地域の連携による小ロットな品目等の広域産地の形成 |
| ② | <ul style="list-style-type: none"> 農業体験を核とした教育旅行など農村ならではのビジネスの創出 農家レストランや加工品開発など食を起点とした所得の創出 観光農園や農家民宿などにおけるワーケーション等の受入体制の整備 |
| ③ | <ul style="list-style-type: none"> 半農半Xなど農山漁村における多様な所得確保の仕組みづくり 地域活性化に向けた活動の主体となる人材や組織の育成 |
| ④ | <ul style="list-style-type: none"> 農地や農業用施設の適切な管理に向けた共同活動や営農継続の促進 遊休農地の発生防止及び再生利用の促進 野生動物の出没抑制につながる里山整備や農作物の鳥獣被害防止対策の促進 |
| ⑤ | <ul style="list-style-type: none"> 防災重点農業用ため池等の防災・減災対策の推進 保安林等の整備の推進 |

2 サキホコレのブランド化戦略の進捗状況について

水田総合利用課秋田米ブランド推進室

11月6日から先行販売を開始するとともに、県内外でプレデビューキャンペーンを展開し、認知度の向上等に取り組んでいる。

1 生産状況

- 今年度は、9生産団体、80haで作付けを行った。
- 品質・収量に影響を及ぼす病害虫の発生もなく、生育は順調に推移した。
- 11月末時点の検査実績では、全量が一等米、かつ、玄米タンパク質含有率6.4%以下となっており、高い品質を確保できた。

技術普及展示ほ調査結果（8地点の平均）

年 度	田 植	出穂期	成熟期	刈 取	収 量
R 2	5/19	8/7	9/17	9/20	591kg/10a
R 3	5/18	8/5	9/19	9/21	573kg/10a

2 プレデビューキャンペーン等

各イベントともに盛況で販売も順調であり、来年秋の本格販売に向けて関係者の期待も高まっている。

(1) 先行販売キックオフイベント

- ・ 時 期 令和3年11月6日(土)
- ・ 場 所 銀座三越、イオンモール秋田
- ・ 内 容 テープカット、トップセールスほか



〔銀座三越での先行販売テープカット〕

(2) 先行販売

- ・ 期 間 令和3年11月6日(土)～令和4年1月
- ・ 販売量 450 t（県内125 t、県外325 t）※見込み
- ・ 販売店 米穀店、量販店等627店（県内374店、県外253店）

(3) 県内プレデビューイベント

- ・ 時 期 令和3年11月13日(土)、14日(日)
- ・ 場 所 いくとく能代ショッピングセンター（13日）
秋田駅ぽぽろーど（13日）
しゅしゅえっとまるしえ（14日）
- ・ 内 容 新米販売、サンプル米配布、
ステージイベントほか



〔県南会場での新米販売〕

(4) 先行提供キャンペーン

- ・ 時 期 令和3年11月13日(土)～令和4年1月
- ・ 内 容 飲食店、宿泊施設におけるメニュー提供
（県内35施設、県外15施設）



〔ホテルの朝食で提供〕

(5) 学校給食への提供

- ・ 時 期 令和3年11月22日(月)～29日(月)
- ・ 対 象 小・中学校、義務教育学校、
特別支援学校等 (309校、約72,000食)



[学校給食で提供]

3 今後の取組計画

(1) 生産対策

ア 栽培技術研修会の開催

- ・ 時 期 令和4年1月～12月 (年5回)
- ・ 対 象 生産者、指導者
- ・ 内 容 栽培方法 (1月)、育苗管理 (5月)、生育診断・肥培管理 (7月)、
適期刈取 (9月)、実績検討 (12月)

イ 生産者協議会の設立

- ・ 時 期 令和4年3月中旬
- ・ 構 成 登録生産団体の代表者等
- ・ 内 容 栽培技術等に関する情報交換、研修会の開催等

(2) 情報発信

ア マスメディアの活用

- ・ 時 期 令和3年12月～令和4年3月
- ・ 内 容 テレビ情報番組 (全国・県内)、専門誌での紹介等

イ スポーツイベントの活用

- ・ 時 期 令和4年1月～3月
- ・ 内 容 バスケットボール等の試合会場でのサンプル米配布

ウ 秋田米ウェブサイト、SNSの活用

- ・ 時 期 令和3年11月～令和4年3月
- ・ 内 容 料理人によるコメント、レシピ (和食、洋食)、産地情報の紹介

【参考】農業系高校での取組

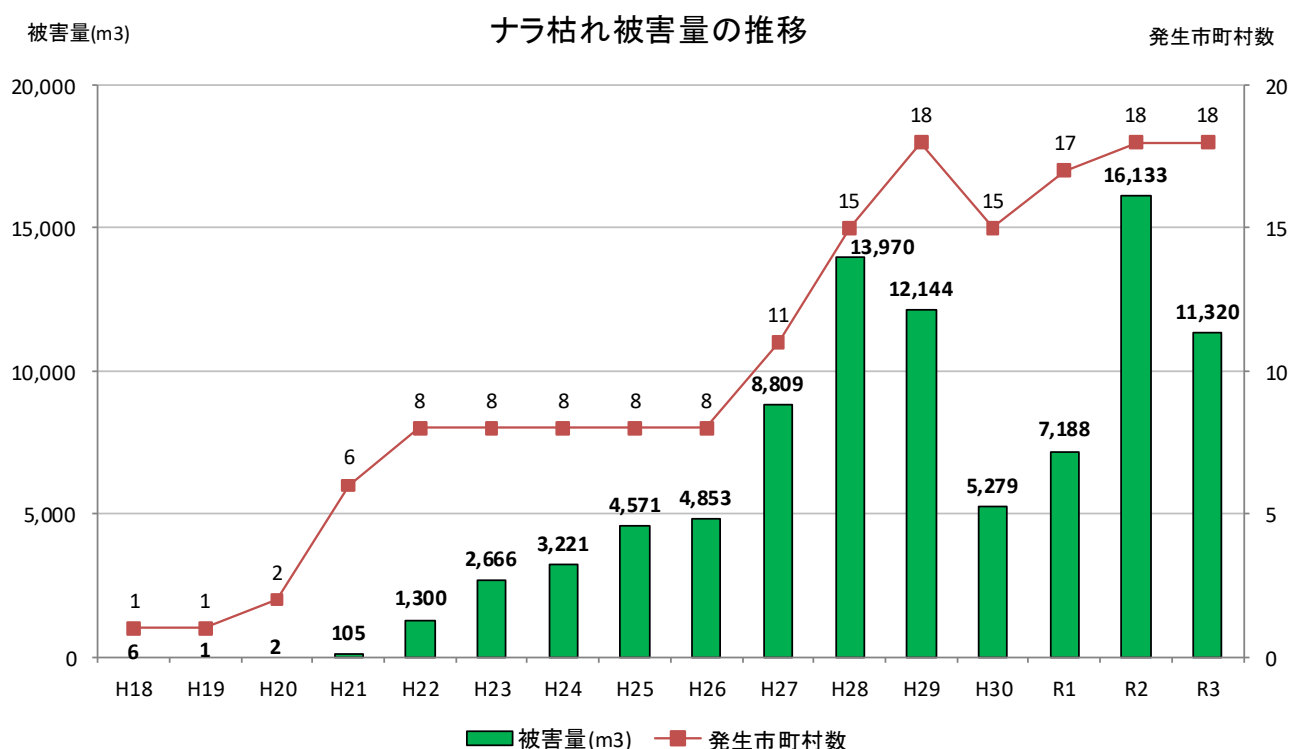
学校名	栽培面積	主な取組
秋田北鷹高等学校	18 a	「あきたこまち」との栽培比較・食味分析調査
能代科学技術高等学校	24 a	「あきたこまち」との栽培比較・食味分析調査
金足農業高等学校	10 a	「あきたこまち」との栽培比較・食味分析調査
西目高等学校	20 a	「つぶぞろい」との栽培比較・食味分析調査
大曲農業高等学校	30 a	移植時期の違いによる生育への影響調査
増田高等学校	4 a	地元小学校との農作業体験学習
計	106 a	

3 ナラ枯れ被害の発生状況について

森林整備課

1 被害の発生状況

本県の民有林における令和3年度のナラ枯れ被害は18市町村で発生し、被害量は前年対比70%の11,320^m₃ (37,727本) に減少した。



2 被害量減少の主な要因

1月上旬の日平均気温が平年値より低く推移し、カシノナガキクイムシの幼虫の越冬生存率が低下したことに加え、8月中旬から9月中旬にかけて日平均気温が平年値より低く推移し、カシノナガキクイムシの飛翔、穿入が抑制されたと推測される。

3 今後の被害防止対策

気象条件等によっては、被害が再び拡大するおそれがあることから、引き続き、関係機関と連携し、次の対策に取り組んでいく。

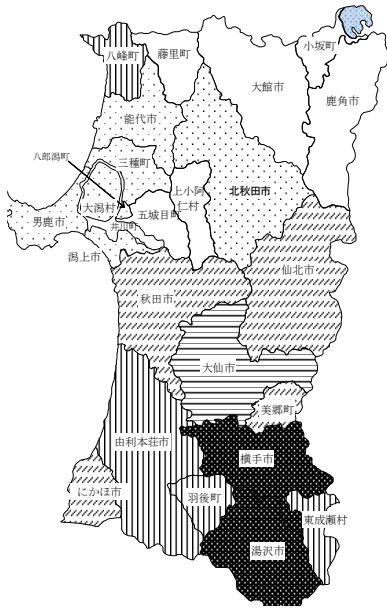
- ・ 守るべきナラ林において、被害の拡大を防止するため、被害木の伐倒駆除や未被害木の予防対策として薬剤の樹幹注入を実施
- ・ 被害を受けやすい老齢ナラ林の更新を促進

※守るべきナラ林とは

ナラ枯れ被害を受けることにより、国土の保全や景観、電線等のライフラインなどに重大な影響を及ぼすおそれがある森林公園、景勝地、道路沿線等の森林のうち市町村が指定した森林

【参考】

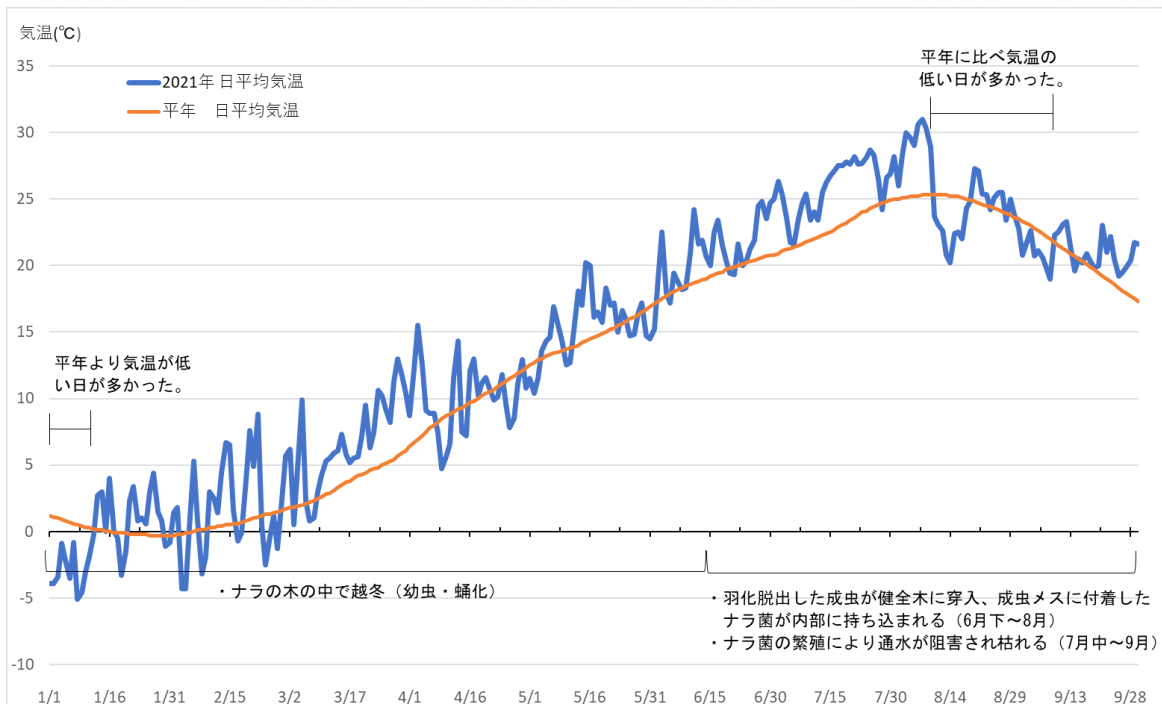
1 市町村別被害発生状況（令和3年度）



凡 例		市町村数
	2,000m ³ 以上	2
	1,000~2,000m ³ 未満	1
	500~1,000m ³ 未満	4
	100~500m ³ 未満	4
	1~100m ³ 未満	7
	なし	7

管内	被害量(m ³)		対前年比
	R2	R3	
北秋田	62	10	16%
山本	2,980	883	30%
秋田	403	186	46%
由利	1,080	783	73%
仙北	2,036	1,865	92%
平鹿	4,493	3,936	88%
雄勝	5,079	3,657	72%
計	16,133	11,320	70%

2 日平均気温の経過（令和3年1月1日～9月30日）



3 ナラ枯れ被害防止対策の実施状況

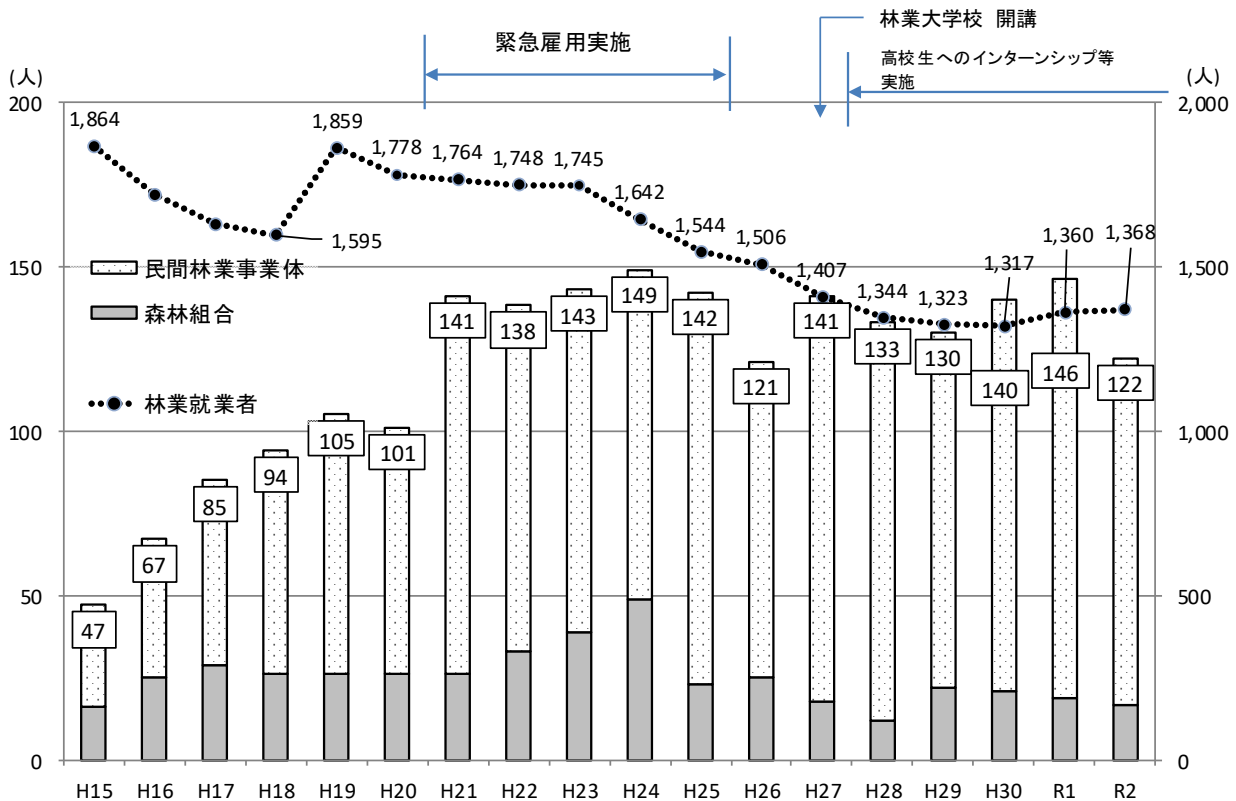
区 分	R1(実績)		R2(実績)		R3(実績見込み)	
	事業量	事業費(千円)	事業量	事業費(千円)	事業量	事業費(千円)
樹幹注入(本)	2,483	9,250	1,341	6,025	2,121	9,960
伐倒駆除(m ³)	174	4,383	230	7,674	145	7,040
ナラ林若返り対策(m ³)	13,800	41,400	14,277	30,994	14,510	30,018
計		55,033		44,693		47,018

4 令和2年度新規林業就業者の確保状況について

森林整備課

- 令和2年度における新規林業就業者数は122人となり、平成24年度以降、9年連続で東北1位となった。
- 就業先別では、民間林業事業体が105人、森林組合が17人となっており、年齢層別では、29歳以下が45人、うち新規学卒者は15人となっている。
- 令和2年度における県内の林業就業者数は、前年度より8人多い1,368人となった。
- 引き続き、高校生へのインターンシップや林業大学校における技術者養成、求職者への総合的な就業支援などにより、移住者を含めた就業者の確保を図っていく。

【新規林業就業者の推移】



【新規就業者の年齢構成】



- ・ 新規林業就業者：林業を事業として営む経営体が雇用した者で、主として林業の現場作業に従事する者（アルバイトやパートなどの臨時雇用を除く）
- ・ 新規学卒者：就業する前に、高校、短大、大学、専門学校、林業大学校等に在学していた者